

荒川区区政改革懇談会  
提言書  
(概要版)

～荒川区の目指すべき将来像について～

平成 18 年 2 月

# 目次

荒川区区政改革懇談会委員名簿……………1

真紅グループ 提言書(概要版)……………2

瑠璃グループ 提言書(概要版)……………7

紫苑グループ 提言書(概要版)……………12

茜グループ 提言書(概要版)……………16

萌黄グループ 提言書(概要版)……………19

山吹グループ 提言書(概要版)……………22

## 荒川区区政改革懇談会委員名簿

真紅グループ	瑠璃グループ	紫苑グループ
赤池史有	小川順一郎	安部義治
川口仁志	小倉康彦	五十嵐進
神保秀久	梶雅俊	石塚嘉広
杉原威史	加藤佐一	伊藤行宏
杉本洋平	久保田剛	汲田憲一
田島俊子	後藤宏道	桑原勇雄
田村顕司	澤野修一	◎櫻井善忠
田村晴彦	島田晴行	高松俊和
鳥畑拓也	長谷川恵子	徳本和雄
二見亨	文村秀哲	樋田武
高橋優樹	三ツ木直樹	丸島高三
中城正憲	吉田忠一	宮島豊
		柳原祐之

茜グループ	萌黄グループ	山吹グループ
新井敏夫	浅香敏子	飯田正二
秋田恵子	石井富江	市川正夫
国府田玲子	石黒早苗	岡田正規
津村礼子	牛丸美代子	尾崎幹男
中村郁子	大貫輝子	桜井房一
松岡香子	車豊子	高見和幸
村上律子	小林知子	千葉智祥
矢嶋薫	斉藤なみ	津田耕嗣
柳田記代巳	佐藤康子	橋本富夫
	渡辺宏子	前田淳一
		吉川赳夫

(◎座長・五十音順・敬称略)

## 荒川区区政改革懇談会

### 真紅グループ 提言書（概要版）

#### はじめに

真紅グループは20歳代から50歳代の勤め人を中心としたグループである。

荒川区生まれの住民として、荒川区で働く勤労者としてなど、それぞれの立場、経験から区に住むこと、働くことの良し悪し、これからの区の望ましい姿とその実現への方向について議論を重ねてきた。

#### 1. 荒川区の目指すべき将来像

##### （1）荒川区のこれからを考える：将来像の基本的考え方

「あらかわの、これから」を考えるにあたっては、今の「あらかわ」にある問題の発見・解決を考えることもさることながら、50年後、100年後の社会全体の姿を考え、その中での「あらかわ」の役割・姿を考える、ということもまた、必要である。

こう考えていくことで将来、「首都圏から、日本から、アジアから、世界から」求められ、また、「首都圏から、日本から、アジアから、世界から」人が集まる「あらかわ」になれる。また、そうなるべく施策や事業を進め、きちんと「首都圏の、日本の、アジアの、世界の」人々の「受け皿」になれる「あらかわ」を実現する必要がある。

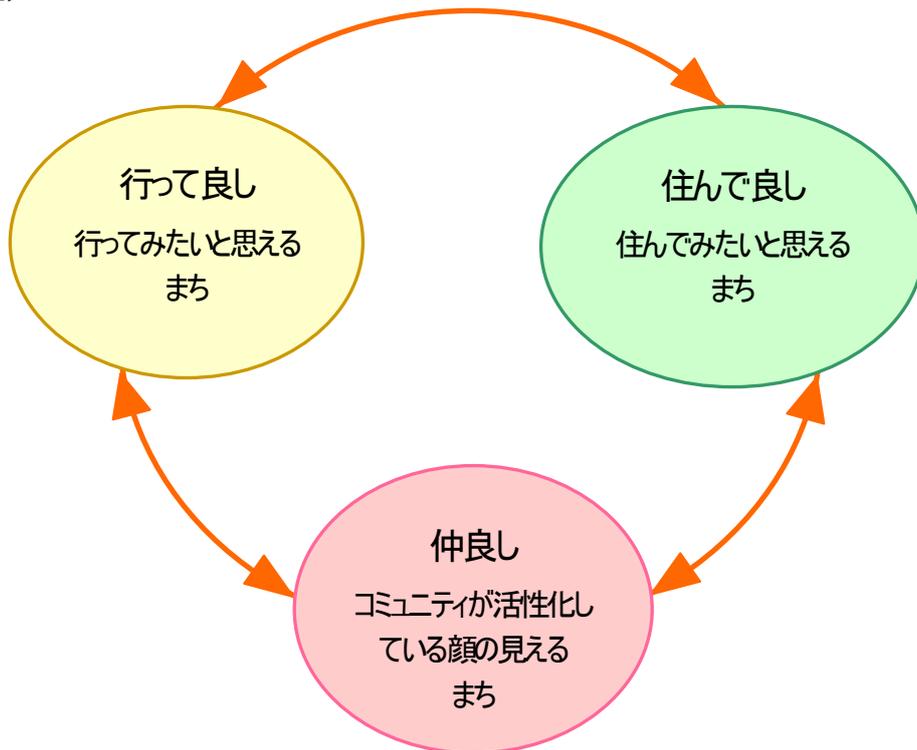
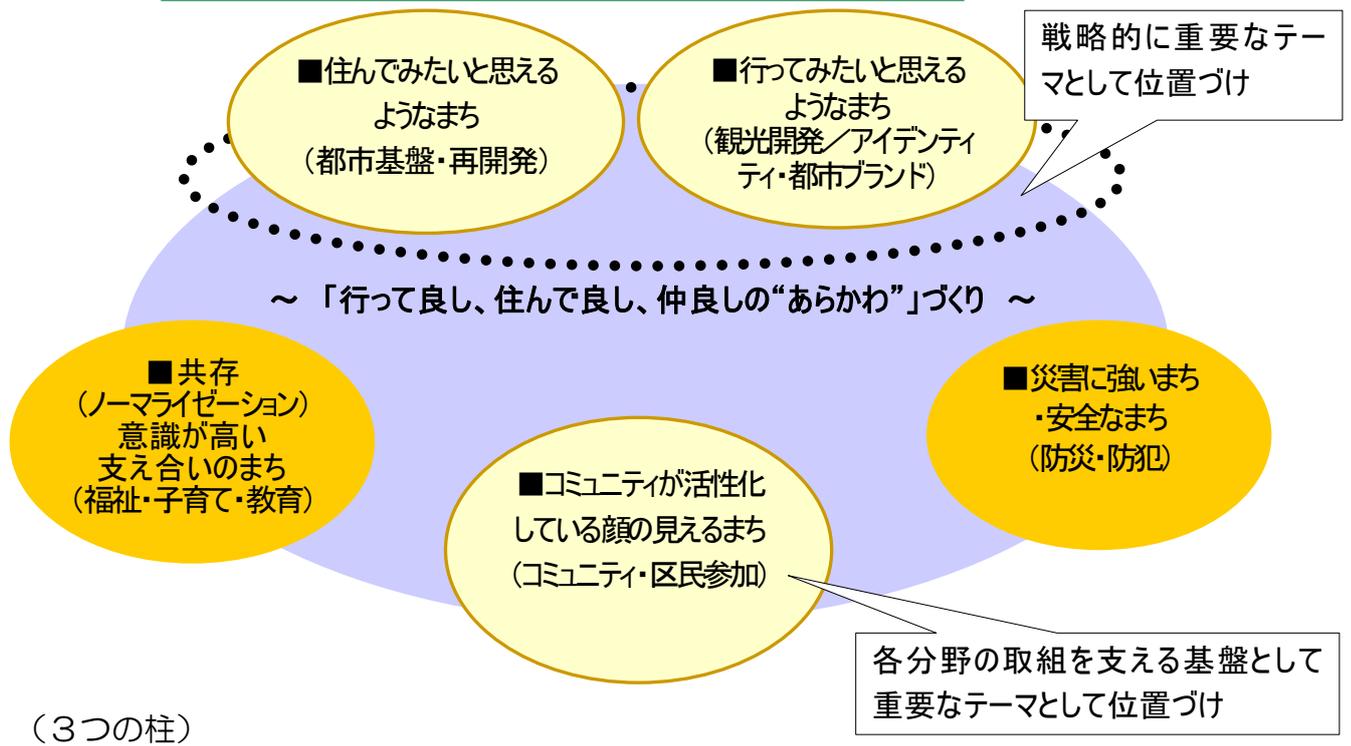
##### （2）荒川区の将来像

（将来像）

「行ってみたい、住んでみたい、顔の見える“あらかわ”」に向けて

訪れる人が荒川ならではの体験を満喫し、住む人が安心して快適に暮らせるような“あらかわ”を、多様な人と人との触れ合いを通して実現する。

行ってみたい、住んでみたい、顔の見える“あらかわ”



- ・ 荒川区の広域的な立地ポテンシャルを最大限に活かすとともに、再開発をまちづくりの契機として捉え、来街環境、居住環境の整備を総合的・計画的に進めることが重要である。
- ・ 様々な取り組みを、多様な主体が協力して展開していくために、荒川ならではのコミュニティの維持と充実を図っていく必要がある。

## 2. 分野別のまちづくり方向

### (1) 行ってみたいと思えるようなまち（観光開発／アイデンティティ・都市ブランド）

#### ◆基本的な考え方

- 荒川区の売りとなる、よりインパクトの高い特色・特徴づくりに向け、歴史文化資源などの活用を図るとともに、対外的なPRの充実を図る

#### ◆対応の方向例

- 日暮里駅の観光基点化
- 下町文化と東アジア文化を体感できるまちづくり 等

### (2) 住んでみたいと思えるようなまち（都市基盤・再開発）

#### ◆基本的な考え方

- 住宅密集地域の再整備に地域住民の合意形成を図りつつ取り組んでいく必要がある
- 都心至近のベッドタウンとして新たな居住者を呼びこむとともに、従来のまちの雰囲気やイメージを残した整備や、大規模開発ゾーンと周辺ゾーンとのメリハリや調和に配慮したまちづくりが必要である
- 自転車空間のあり方を検討しつつ、人中心の道路網整備や公共交通中心の交通体系の整備が必要である

#### ◆対応の方向例

- まちづくりルールの整備
- 道路網の再構築と生活道路の歩行者優先化
- 建造物等の省エネルギー化 等

### (3) 災害に強いまち・安全なまち（防災・防犯）

#### ◆基本的な考え方

- 災害に強いまちの実現に向け、都市環境の改善などハード面の取り組みや、災害時の連絡や復旧体制の整備などのソフト面の取り組みを進める必要がある
- 犯罪のない安全なまちの実現に向け、区民、学校、行政などが連携し、地域ぐるみの取組を進める必要がある
- コミュニティを強くしていくことがセキュリティの強化につながる

#### ◆対応の方向例

- 木造密集市街地の改善
- 自治会・町会を軸とした防災・防犯コミュニティの形成
- 参加者が楽しめるイベントを訓練に取り入れる等

(4) 共存（ノーマライゼーション）意識が高い支え合いのまち（福祉・子育て・教育）

◆基本的な考え方

- 障がい者や高齢者をはじめ、だれもがいきいきと暮らせるような地域社会づくりが必要である
- 子どもの頃からの教育を充実するとともに、子どもと高齢者など、多様な交流の場をつくっていく必要がある
- 再開発で人口増加が予想される中で子育てや教育環境を充実する必要がある

◆対応の方向例

- 独居老人の安否確認体制やお年寄・障がい者情報の自治会等での共有
- 子どもと高齢者が日常的に気軽に交流できる施設の整備 等

(5) コミュニティが活性化しているまち（コミュニティ・区民参加）

◆基本的な考え方

- お互いの顔が見え、地域の課題解決のために相互に支え合い協力し合えるような地域社会の実現に向け、自治会・町会活動をはじめ、各種ボランティア活動、世代間交流など、多様なコミュニティを形成していく必要がある

◆対応の方向例

- グループホームや学校などを活用した日常的な世代間交流の場づくり
- 自治会・町会情報の提供による参加者拡大
- 趣味や文化活動などを含めたテーマ型コミュニティ活動の支援 等

### 3. 基本構想の実現に向けた展望と課題

#### (1) 基本的考え方

##### <基本構想の意義と役割>

区政の憲法（基本理念）  
区政のビジョンと戦略構想  
区政全体の課題設定（アジェンダ・セッティング）及び政策評価基準（※）  
※荒川区政のベンチマークとして機能

##### <基本構想の実現に向けた課題>

##### 区側の課題

- ・荒川区の改善には区だけでは限界→区民とのパートナーシップが必要
- ・区民の意見を反映させるための取り組みが必要
- ・区政の透明性と健全性の確保が必要

##### 区民の課題

- ・地域の責任ある主体としてコミュニティへの参画が必要
- ・区政の透明性とニーズの反映に向けた政策への関与が必要

##### 地域の課題

- ・共存の実現、コミュニティの再生
- ・地域ぐるみで子どもの教育、学校の安全づくりを推進する
- ・災害に強い、犯罪のない安全まちをつくる

※区あるいは区民単独では実現困難な課題も多い。

各主体の役割分担の検討

・区、区民、地域など、課題解決に向けた各々の主体の役割分担を検討していく必要がある。

#### (2) 区民と区との協働の推進

区民と区とが相互に理解を深めながら、各々の役割を果たしていく、協働の充実を図る。

#### 協働の推進に向けた提案

##### 協働の推進に向けた基本方向

- ①目標の明確化と共有
- ②コミュニケーションの場と機会づくり
- ③区の基礎体力としてのコミュニティの充実
- ④モデルプロジェクトづくり

##### 協働のツール及びプロセス（例）

問題発見と意識醸成

参加の拡大

合意形成

実践への展開

#### (3) 情報発信の充実

荒川区の存在感を高める情報発信活動を充実

## 荒川区区政改革懇談会

### 瑠璃グループ 提言書（概要版）

#### はじめに

瑠璃グループは30歳代から40歳代のメンバーが多い、自営業の経営者などが集まっているグループである。

荒川生まれの住民として、この地の実家を継いだ経営者として、また区の支援を受けたベンチャー起業家として、それぞれの立場、経験から区に住む、働くことの見解を出し合い、これからの区の望ましい姿とその実現への方向について議論を重ねてきた。

#### 【荒川区の課題】

- ・瑠璃グループでは、荒川区について、「派手さはなくあまり知られていないが、得がたいコミュニティなどがあって住みやすい。」と評価している。一方でコミュニティのネットワークが高齢化、新住民の流入、人々の意識の変化により弱まっており、福祉、防災面で課題となっている。また全般に荒川区はPR下手で、そのために産業や街の魅力が高まらなかったり、行政と住民のギャップがあったりする点も課題だと考えた。

#### 【荒川区を変えるキーワード】

- ・グループでは、コミュニティや住みやすさの源を考えるうち、「粋（いき）」という言葉にたどり着いた。辞書によると「気持ちや身なりのさっぱりとあかぬけしていて、色気がある。人情の表裏に通じる。」の意。さらに、行き過ぎると気障、粋でなくなると野暮になると言われる。
- ・もともと荒川区にはこうした精神が根付いている。「地味だけときらりと光るところがある。肩で風は切っていないが、頼まれたらいやと言えない。」もし住み働く人の認識や心のルールが変われば、街の活力が変わってくるのではないか。それなら荒川区はこの「イキ」の魅力でいこう、とグループでは一致した。

#### 【イキ！な荒川区プラン】

- ・「粋（イキ）」に関連して、荒川区の生活全体をいろいろな「イキ」で表わし、実現に向けた方向付けを以下4つの分野で検討した。
- ① 域（防犯・防災）「地域のつながりで安心して暮らす」
  - ② 生（生活、福祉、環境）「人の心に触れて生活する」
  - ③ 活（産業）「知恵と技を活かす」
  - ④ 憩（芸能、文化、余暇）「憩いの場所としての荒川」
  - ⑤ 粋（ライフスタイル）「下町らしい粋なスタイルで暮らす」
- ・グループでは、これらがばらばらに実施されるのではなく、連携したトータルな施策とすることで波及効果があらわれると考えている。

## イキ！な荒川区プラン

イキ！な  
荒川区へ  
イキたい！  
荒川区へ

域  
(イキ)

防犯・防災

「**地域**のつながりで安心して暮らす」

生  
(イキ)

生活、福祉、環境

「人の心に触れて**生活**する」

活  
(イキ)

産業

「知恵と技を**活**かす」

憩  
(イキ)

芸能、文化、余暇

「**憩**いの場所としての荒川」

粋  
(イキ)

ライフスタイル

「下町らしい**粋**なスタイルで暮らす」

以下はその施策例である。

### ①域（防犯・防災）

- ・ JR 線のガード下のライトアップなど、危険を誘発する暗闇をなくす明るさ環境の整備。
- ・ 祖父母世代が参加する、子供の交通・防犯面の安全確保。
- ・ 防犯上何かあった際、かけ込める家の普及。
- ・ 雨水を利用するシステムを導入して、かつ親水公園等に利用して子供の遊び場をつくる
- ・ 「荒川区おんぶ隊（注）」の仕組みの普及。

（注）荒川区おんぶ隊：区民が登録して、災害時に 1 人暮らしなどの体が不自由な高齢者や障がい者をおんぶして救助する。

### ②生（生活、福祉、環境）

- ・ マンションやアパートの新しい住民を含めた町会の形成。
- ・ 町会のネットワーク、行政による一人暮らしのお年寄りの把握と声かけ活動。
- ・ 首都大学東京荒川キャンパス（医療・福祉学）を中心に小、中、高校の授業の一部を大学で行うプログラムをつくる。
- ・ 学校によい先生を誘導できる異動の仕組みを検討する。
- ・ 福祉体験広場（北区）や荒川自然公園、尾久の原公園、汐入公園等を使用した学外学習の実施。
- ・ 子育て支援所、子供の遊び場、託児、宅老所の増設。
- ・ 寺社や銭湯の複合用途としてデイサービス化の支援をする。
- ・ 商店街の空き店舗等を活用した小規模多機能な民間資本のデイケアホームの設立支援をする。
- ・ 交通のバリアに関して、住民の投票等により早期改善する場所を決める。
- ・ 世代別区報の発行、区報のメールマガジン化（注）などを推進する。

（注）メールマガジン：メールマガジンは、発信者が定期的にメールで情報を流し、読みたい人が講読するメールの配信の一形態である。

### ③活（産業）

- ・ 「(仮) 荒川バウハウス (注)」(工芸デザイン学校) の設立 (区内には「荒川マイスター」をはじめとする優れた技能を持っている職人が多く、中には区外の美術大学で講師として迎えられている方もいる。そうした方々を講師として迎え学校で教べんをとってもらい、それぞれ工房を設け新しい製品をつくり、その収益で学校運営や後継者育成を図る。地域の工場との連携を図り、技術、人的交流の核となる)。
- ・ 町工場再生の手立ての一つとして、「アトリエ (工房) 化計画」を考える。これは高い技術を持つ職人とそのサポートをするデザイナーをつけ、そのコラボレーションの上、既存の枠組にない新しい有益な製品をつくり、新しい魅力を作り上げる。このプロジェクトは上記とも連動する。
- ・ 「(仮) 荒川 WALKER」 発刊などを推進。
- ・ 区内学校で、伝統産業の体験授業等を取り入れる。
- ・ 粋な商慣習を学ぶ社会人向け研修会の実施。
- ・ 商店等へのインターン授業、実験店舗の試みをする。
- ・ 支援企業や個人からの融資、人的支援システムをつくる。
- ・ 専門書の充実した大きい書店の誘致。

(注) バウハウス：ドイツで 1919 年に設立 (現在は閉校)。主として建築家や芸術家が、職人の技術的、芸術的価値に着目し、その技能と新しいデザイン思想を融合させ、機能性と美を追求した。多くのマイスターを輩出し、現代のデザイン潮流にも影響を与えている。

### ④憩（芸能、文化、余暇）

- ・ 3 区 (荒川、文京、台東) の芸能・文化伝統を合わせた観光ルートの開発と、地域バスの連携、ミニツアーの実施。
- ・ 落語講座の開催、地元のお寺を借り怪談話の落語会等を開催。
- ・ TV ドラマの撮影場所になったスポット (場所) を PR して人を呼び込む。
- ・ 地元の知る人ぞ知るおいしい店などを紹介。
- ・ あらかわ遊園とその周辺を「テーマパーク化」し、都電駅～遊園の一方通行でなく、地域に回遊性を導入する。例えば、日暮里の駄菓子屋横丁のようなものをこの地域に移したり、下町グルメ (もんじゃ、お好み焼き、あんみつなど) ストリートを形成したり魅力をさらに高める。また、遊園から墨田川までに続く大正時代の旧レンガ工場跡地のレンガ塀の修景事業による「歴史の散歩道」としての整備もこの一環として行う
- ・ 「第 2 江戸東京たてももの園」(注) の創設 [再開発等で使われなくなる伝統木造家屋 (商店、銭湯、料亭、蔵などの集合体)]。
- ・ 童話 (メルヘン) 文学コンクール、和楽器 (琴、三味線など) の定期演奏会などの関連行事の開催。

- ・ 南千住地区では、汐入地区の平成の近代的な街づくりに始まり、南千住駅を経て、コッ通りを「昭和レトロなまちづくり」をコンセプトにし、千住大橋を経て、北千住の松尾芭蕉や蔵のコンセプトとリンクさせる。
- ・ 隅田川を環境文化の学習の場にし、「川の手」の文化の向上を図る。

(注)東京たてもの園：東京都墨田区の JR 両国駅前にある江戸東京博物館の分館として、東京都小金井市の都立小金井公園内に設置された野外博物館である。

## ⑤ 粋（ライフスタイル）

- ・ 日暮里繊維問屋街で、個人的に裁縫をしたいがミシンのない人や子供の入学・入園準備をひかえた父母を対象にした裁縫教室の開催。
- ・ 若者向け和装教室の開催。
- ・ 将来の日暮里駅近辺の発展から、その周辺地域の活性化を考え、工場跡地などの広い後背地の活用を考える。
- ・ 服飾系、美容・理容系の専門学校を多数誘致する。
- ・ SOHO支援事業を展開する（地元企業・職人・デザイナーとのコラボレーションの促進）。

## 荒川区区政改革懇談会

### 紫苑グループ 提言書（概要版）

#### はじめに

この提言は、主に50～60歳代の自営の経営者から構成されている紫苑グループが、昨年7月から8回にわたって区政改革懇談会において議論を重ねてきたものである。長年荒川区に住み慣れた経験や愛着心、そして豊富な人生経験をもとに、荒川区の現状や問題点、課題、対策案まで、できるだけ具体的な議論を重ねてきた。

#### 1. 荒川区の取り組むべき課題

##### 重要課題1：財政基盤の強化・確立

近年の自治体を取り巻く環境を踏まえると、当面の現実的な課題は財政基盤の強化・確立（国・地方を含めた財政的な危機状況をいかに脱出するか）である。

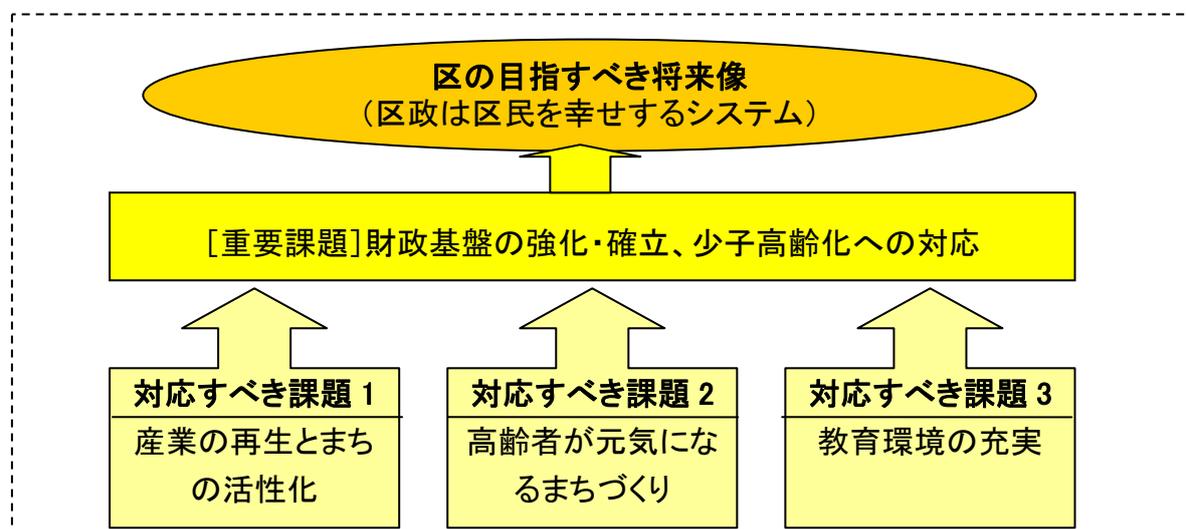
##### 重要課題2：少子高齢化への対応

荒川区の少子高齢化の現象は23区の中でも顕著である。今後、少子高齢化がますます進展し、区財政や区民生活へ多大な影響を与えることが予想される。

#### ●対応すべき課題

- ✓ 財政基盤の強化を図るためには、歳入の増加（自主財源の確保）と歳出の抑制が不可欠である。歳入を増やすためには、産業の再生やまちの活性化が不可欠である。
- ✓ 高齢化社会へ対応するためには、高齢者が元気になり、活躍できるまちになることが必要である。また、元気な高齢者が増えることは、区の歳出抑制にも貢献する。
- ✓ 少子化に対応するためには、こどもを産めるまち、安心して育てられるまち、豊かな人材を育てられるまちとなるための、教育環境の充実が重要である。

※紫苑グループにおいては、総花的に提案をするよりも、上記3課題が特に対応すべき重要な課題と考え、これらをもとに具体的な検討を行なった。



## 2. 産業の再生とまちの活性化のための取り組み方針と対策案

取り組み方針	対 策 案	時期
荒川区ブランドの確立	◎ブランド戦略機関の発足	短期
	ニポカジの見直し	短期
	OPR 戦略の徹底	短期 ～中期
回遊できるまちづくり	○現有施設の有効活用 (あらかわ遊園など)	短期
	◎区外から人を呼び込むための仕 掛けづくり	短期
	◎区外からの人を回遊させるため の仕掛けづくり	短期
	川や川辺を活用した回遊のあり 方の検討	短期 ～中期
交通体系の整備	◎回遊を想定した交通網の再構 築・体系化	短期 ～長期
	近隣区との連携	短期 ～中期
産業の振興	○強みを活かした地場産業づくり	中期
	先端産業の誘致	短期 ～長期
	◎産業のネットワーク化	短期 ～中期

◎：最優先  
○：優先

### 3. 高齢者が元気になるまちづくりのための取り組み方針と対策案

取り組み方針	対策案	時期
高齢者の社会参加の促進	○高齢者が参加できるボランティア、NPO組織の充実	短期～中期
	○高齢者雇用促進に向けた諸制度や基盤の充実	短期
	高齢者の社会参加ビジネスの推進	中期～長期
町会・コミュニティ機能の再構築	◎町会を活用した行政業務のアウトソーシングの推進	短期
	○防災・福祉等横断的に対応できる町会機能の確立	短期
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;">                     ◎：最優先                      ○：優先                 </div>		

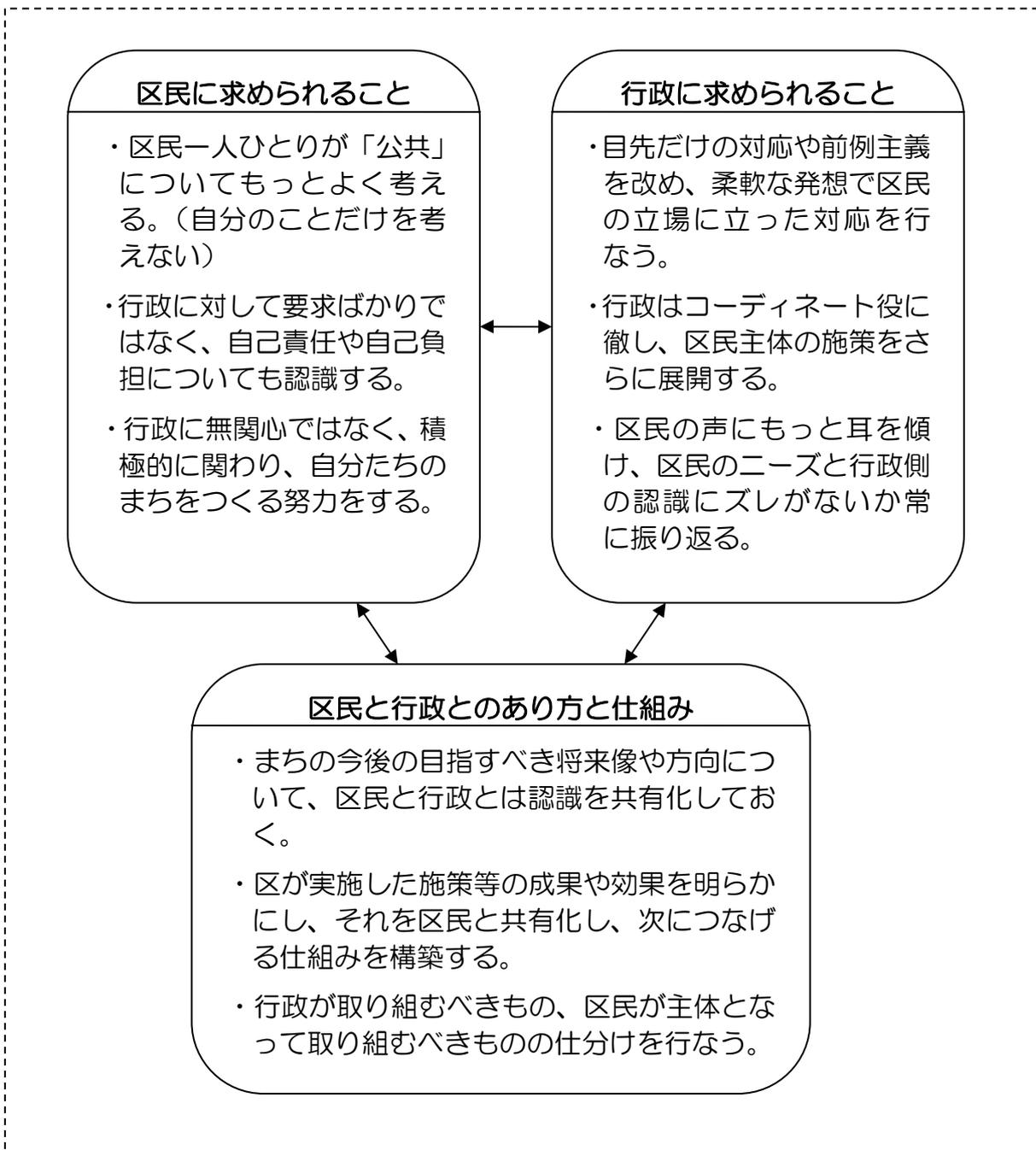
### 4. 教育環境の充実のための取り組み方針と対策案

取り組み方針	対策案	時期
学力の向上 豊かな心の育成	◎特徴のある学校づくり	短期
	○学校（校長）への経営的視点の導入	短期～中期
教員の資質の向上	◎教員評価システムの導入	短期～中期
	○教員採用基準・方法の見直し	短期～中期
地域教育・家庭教育の充実	◎地域と一体となった教育システムの導入	短期～中期
	家庭教育の見直しのための地域連携の推進、保護者への教育支援	中期～長期
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; display: inline-block;">                     ◎：最優先                      ○：優先                 </div>		

## 5. 対策を実効的にするために

紫苑グループは半年以上の討議を経て、以上のような対策案をとりまとめたが、これらの案が、単なる提案で終わるのではなく、今後さらなる検討を経て、具体的な施策等に結びついていくことが重要であると我々は考えている。

そのためには、以下のような行政と区民の今後のあり方、意識改革などが重要であると考えます。



# 荒川区区政改革懇談会

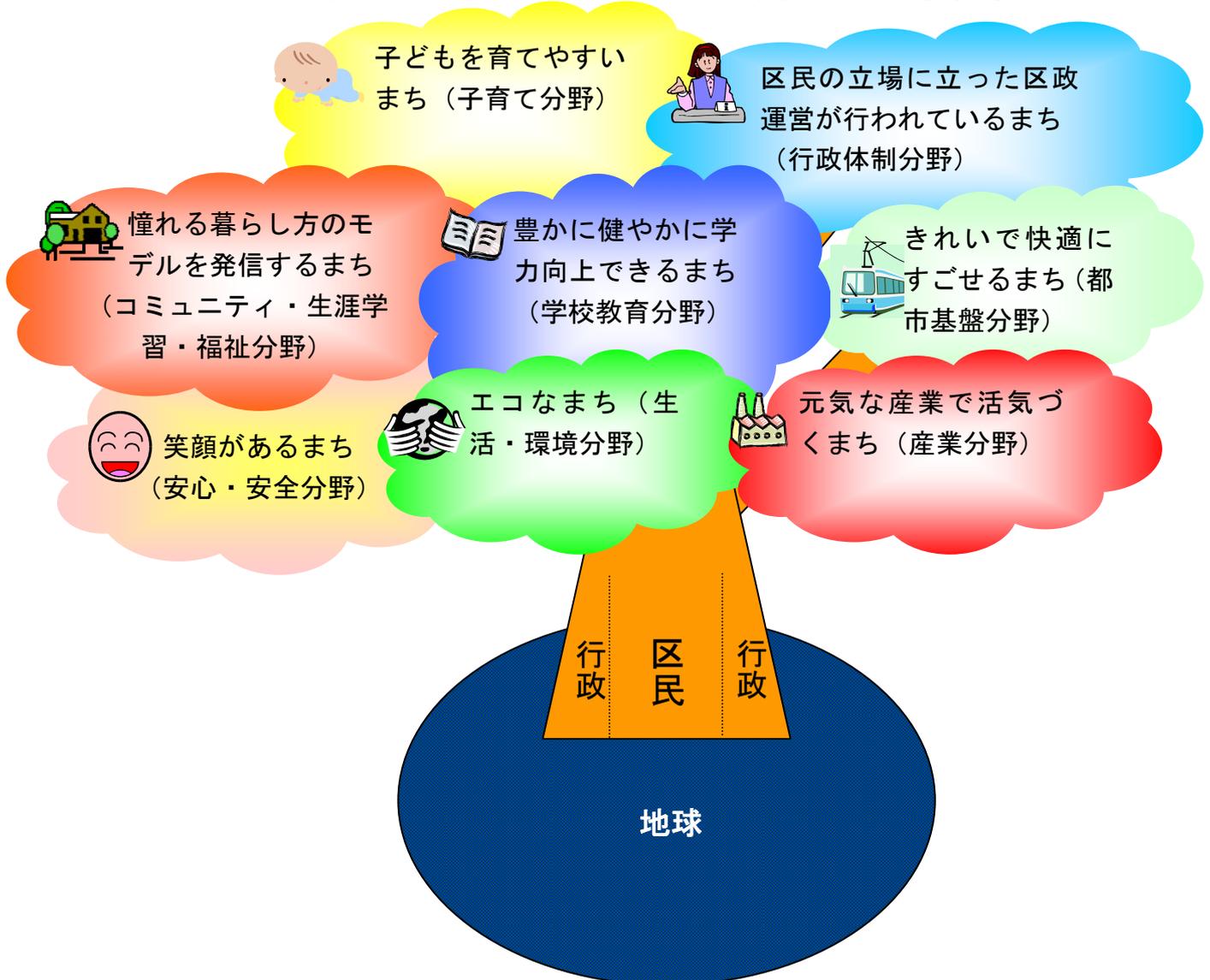
## 茜グループ 提言書（概要版）

はじめに

茜グループは過去・現在に区内で子育てをしている（していた）人が中心のグループである。討議では、メンバーの特性を活かし、子育てや教育など区内で普段生活している視点から活発な議論を行った。

茜グループの荒川区の将来像は区を一本の木にたとえて考えた。その木は、中央に主役であるべき「区民」が、両端を、さまざまな場面で生活を支える「行政」で示し、区民と行政とが一心同体となり、荒川区をつくりあげていることをたとえて示している。そしてその荒川区の木が地球に根を下ろし、地球と共生しながら、様々な分野で「花」を咲かせていけたら良い（あるべきまちの姿を実現させていけたら良い）というものである。

### こんなまちの姿であるべき！！荒川区の将来像



## 咲かせていくべき花（分野別あるべきまちの姿）①



### 子どもを育てやすいまち（子育て分野）

- ◎ 社会全体で子どもを育てるという意識がある
- ◎ 子供を安心して預けられる体制がある
- ◎ 子育てへの経済的な支援がある
- ◎ 子育ての情報が得やすく、「親になる」ための教育体制が整っている
- ◎ 子どもの医療体制が整っている

### 豊かに健やかに学力向上できるまち（学校教育分野）



- ◎ 人間としての基本的なことが学べる教育環境が整っている
- ◎ 公立校の教育力が高く、越境するなら「荒川区の学校へ」と思われるようになっている
- ◎ 学校（行政）と地域・保護者との間で常にコミュニケーションがとられている。
- ◎ 学びやすい施設環境が整っている



### 憧れる暮らし方のモデルを発信するまち（コミュニティ・生涯学習・福祉分野）

- ◎ 気軽に近所づきあいができ、世代間の出会いの場がある
- ◎ 趣味と地域活動をつなげるしくみがある
- ◎ 区民の中でボランティア意識が根付いている
- ◎ 子どもがのびのびと遊ぶことができる
- ◎ 高齢者が生き生きと外に出て活動している

### 笑顔のあるまち（安心・安全分野）



- ◎ 地域コミュニティを活かした防災・防犯体制がある
- ◎ 防災・防犯に関する情報が区と区民との間で共有できている

## 咲かせていくべき花（分野別あるべきまちの姿）②

### 区民の立場に立った信頼できる区政運営が行われるまち（行政体制分野）



- ④ 区民との連携が促進されている
- ④ 行政が区民志向で運営されている

### きれいで快適に過ごせるまち（都市基盤分野）



- ④ 生活に便利なまちになっている
- ④ 一貫した都市計画がなされている



### 気ある産業で活気づくまち（産業分野）

- ④ 環境を起点としたモノづくりのまちとして賑わっている
- ④ 新しい産業や雇用を生み出す源がある
- ④ 人の集まるスポットがある
- ④ 区内の伝統工芸が継承・保存されている

### エコなまち（生活・環境分野）



- ④ きれいなまちになっている
- ④ 循環型社会への区民の意識が高くなっている

## 荒川区区政改革懇談会

### 萌黄グループ 提言書（概要版）

はじめに

萌黄グループは、子育てを終えた女性だけで編成するメンバーであり、女性あるいは主婦の視点に立って、荒川区を住みやすいまちにしたいという思いからこれまで9回にわたって議論してきた。

この提言は、メンバーの性格上、主に「安全で清潔な住みよいまちづくり」について、区政のあるべき姿やその方向性を取りまとめている。

- ・いざというときに地域住民が協力し合う
- ・歩道の拡幅と電柱の地中化
- ・生活道路の整備

#### 安全なまちづくり

- ・美しい街並み、みどりが多くゴミのないまち
- ・屋上も含む緑化の推進
- ・雨水利用を進める
- ・ソフト（マナー）・ハード（駐輪場）の自転車対策

#### 生活環境の整備

### 荒川区の目指すべき将来像 — 私たちの4つの夢 —

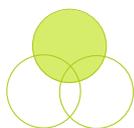
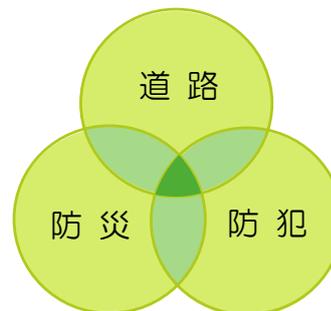
#### 子どもを育てやすいまちづくり

- ・経済的支援策の充実
- ・教育環境の整備
- ・働きやすく安心して子育てができる環境づくり

#### 日本の玄関になる荒川区

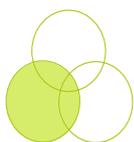
- ・日暮里駅周辺の再開発事業に観光を取り込む
- ・日暮里駅周辺に外国人向けのホテルを誘致
- ・繊維街を活用
- ・区内をアート回廊として整備
- ・まちづくりの観点から観光客を受け入れる体制を整備
- ・南千住のララテラスにコミュニティバスのバス停をつくる
- ・区内を散策できるように、歩道や商店街を総合的に整備

## 安全なまちづくり



### 《道 路》

- 着実に土地区画整理事業などの都市計画を推進するとともに、道路の整備・拡幅にあたっては、地域の開発事業に合わせて実施する



### 《防 災》

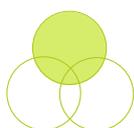
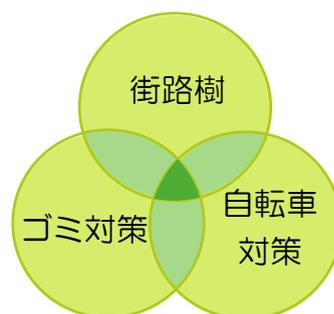
- コミュニティFM局の開設や携帯電話を活用した新たなしくみづくり
- 授業の中で子どもたちの防災意識を高める
- 防災6か条を作成し普及させる
  - （火の始末、逃げ道の確保、非常持ち出し袋の準備、家族が離ればなれになった時の話し合い、避難場所の確認、住まいの防災総点検）
- 協議会を設置し、どこで医療が受けられるか、また、一人で避難できない人の把握方法などを検討する
- 災害時のマンション対策を検討する
- 万一の災害時に万全な対応ができる体制を確立する
- 無関心な人に対していかに関心を持ってもらうか検討する
- ペット用の避難場所をどうするか検討する



### 《防 犯》

- 近所とのつきあいを深める
- 空き巣の被害にあわないよう自助努力に努める
- 地域ぐるみで、犯罪の被害を未然に防止する対策を検討する

## 生活環境の整備



### 《街路樹》

- 街路樹を増やし魅力あるみどりの景観を形成する
- 定期的に剪定し、運転手からの見通しや安全を確保する
- 区民参加による花のあるまちづくりを進める



### 《ゴミ対策》

- ゴミの収集は、できるだけ午前中に行う
- 町会単位でゴミを減量化するとともに、ゴミ箱を設置する
- 区の助成でコンポストの設置を奨励し、ゴミの減量化と肥料などへの資源化を図る
- ゴミの分別を更に細分化し、ゴミを減量化する
- パッケージの開発や過剰包装の改善など、区が事業者に働きかける
- ゴミを減量化するための工夫や方法を公募する
- ポイント制を導入するなど地域ぐるみで牛乳パックを回収する



### 《自転車対策》

- 使い勝手の良い駐輪場（有料も可）を整備する
- シルバー人材センターの高齢者に放置自転車の取り締まりの権限を与える
- 協議会を設置し、抜本的な駐輪場整備のあり方を検討する

## 荒川区区政改革懇談会

### 山吹グループ 提言書（概要版）

#### はじめに

この提言は、10名で構成された山吹グループメンバーが期待する区政改革の方向を、提言として取りまとめたものである。

グループメンバーは、民間企業や公的機関などで、長い間仕事や活動を通して培ってきた経験や知識を、来るべき新たな時代の区政に少しでも反映し、荒川区をすべての区民にとって住みやすいまちにしたいという熱い思いを持ちながら、議論を重ねてきた。

この提言は、「産業・経済」「教育・青少年育成」「障がい児・者福祉」「まちづくり」「環境」「コミュニティ」「区政」及び「基本構想実現に向けて」の、区政に関する8分野のあるべき姿や、その実現のための方向性をとりまとめている。

このうち最も重要なことは、「基本構想を実現するための仕組みをつくり、実現に向けた取り組みを行うことである」が、メンバーの一致した共通の認識である。

#### 1. 荒川区の現状

##### （1）産業・経済

###### ①ものづくり・製造業

伝統的な工芸技術を持つ職人が多く住む『ものづくりのまち』であるが、その存在は区内外に広く知られておらず、後継者も不足するなど、活力が失われつつある。

###### ②観光（文化財の保全などの観点も含めて）

現在では観光の目玉はないが、埋もれた資源も含めて名所・旧跡は多く、整備やPRを進めることにより、観光資源となる可能性がある

##### （2）教育・青少年育成

一部児童・生徒により、正常な授業に支障のあるケースが見られるとともに、青少年犯罪の増加・低年齢化・凶悪化の傾向が拡大している。

##### （3）障がい児・者福祉

自立したいと考える障がい児・者が増え、小学校で障がいに対する教育が実施されるなど障がい児・者を取り巻く環境は変わりつつあるが、不十分な状態である。

##### （4）まちづくり

再開発やマンション建設などにより下町風情がなくなりつつあり、安全に配慮しながら、新たなまちづくりと下町風情が調和した個性あるまちづくりを進める必要がある。

##### （5）環境

排気ガスが原因と考えられる喘息患者が増加しており、またゴミのリサイクル運動が徹底していない。

(6) コミュニティ

マンションなどの増加により区外からの転入者が増えているが、居住歴の長い区民とのコミュニティが形成できないケースが増えている

(7) 区政

区民の声を反映する仕組み、十分な情報開示や効率的な行政運営ができていないと思われる点があり、区政改革の明確なイメージが見えない。

(8) 基本構想実現に向けて

区民が参加しながら、構想・計画と実行評価を予算と連動して行う仕組みを構築して、基本構想を絵に描いたもちとしない、実現のための仕組みが最も重要である。

## 2. 荒川区の目指すべき将来像

分野別の将来像を次の通り提言する

### 荒川区の目指すべき将来像

産 業  
経 済

- 匠の心を伝承するものづくりのまち
- 都市型観光産業を育成するまち

教育・青少年の  
健全育成

- 魅力的で厳格な学校授業が行われ、健全な青少年が育つまち

障がい者福祉

- 障がいの有無に関わらず、すべての区民が安心して暮らせるまち

まちづくり

- 新たなまちづくりと江戸の下町風情が調和する、安全・安心で、快適な新しい息吹の感じられる美しいまち

環 境

- 区民総ぐるみで環境先進区としての取り組みが展開されているまち

コミュニティ

- 居住年数や年齢などをこえて多様なコミュニティ活動が展開されているまち

区 政

- より区民に開かれた区政が実現しているまち

基本構想の実現  
に向けて

- 行政評価の仕組みが適正運営され、評価を行いながら基本構想の目標達成のための活動が進められているまち

### 3. 分野別のまちづくりの方向

#### (1) 産業・経済

##### ①ものづくり・製造業

###### ■「匠の心を伝承するものづくりのまち」実現のために

###### ○匠の技術の継承と情報発信

- ・区外及び区民向け情報発信の強化、駅など交通結節点の公共空間の活用も含めた区外向け情報発信の強化、匠会館などの設置検討 など

###### ○後継者の育成

- ・区産業・匠の技術などの情報発信により後継者候補の広域的誘導（二ト対策など） など

##### ②観 光

###### ■「都市型観光産業を育成するまち」実現のために

###### ○目玉となる観光資源の発掘・整備

- ・隅田川や都電などの観光資源としての活用を検討、史跡や文化財の整備・発掘、工芸技術など産業の観光資源としての活用検討 など

###### ○情報発信・PRの積極的展開

- ・駅など利用者の多い公共空間を活用したPR、区民相互の連携による資源の発掘とPR、歴史作家などを活用した区の歴史本の作成 など

#### (2) 教育・青少年の健全育成

###### ■「魅力的で厳格な授業が行われ、健全な青少年が育つまち」実現のために

###### ○魅力的で厳格な教育の実現と子供の基礎学力の向上

- ・基礎学力の向上を目指した教育内容の充実、民間人の経験やノウハウの活用、小中学校の選択制度の強化・維持 など

###### ○青少年の行動に結びつく仕組みづくりと地域の指導力の強化

- ・親・子供・教員・教育委員会と地域の連携の強化、教育現場の声が届く教育委員会の実現と学校との連携強化、登校拒否・二ト問題などの早急な対応、社会ルールを教える機会の拡大強化 など

#### (3) 障がい児・者福祉

###### ■「障がいの有無に関わらず、すべての区民が安心して暮らせるまち」実現のために

###### ○全ての区民の意識改革

- ・障がい児・者の家族の相談の場・機会の拡大、区民のノーマライゼーション意識の醸成、障がい児・者自身の意識改革と、特に障がい児・者福祉と直接関わりを持っていない一般区民との交流拡大 など

###### ○障がい児・者の地域社会への参加促進

- ・引きこもりがちな障がい児・者の地域社会への参画、雇用機会の拡大などによる障がい児・者の自立支援 など

#### (4) まちづくり

■「新たなまちづくりと江戸の下町風情が調和する、安全・安心で、快適な新しい息吹の感じられる美しいまち」実現のために

○古い町と再開発された町が調和した活力と魅力のまちづくり

- ・交通利便な地区における再開発の推進・江戸の面影を残す下町づくりと相互の調和、都電や隅田川を活かしたまちづくり など

○安全・安心・快適なまちの実現

- ・電線の地中化や狭い路地の環境整備など防災面も考慮した生活道路の整備拡充、防災都市宣言の実行とPR、安全で美しいまちづくり（まちの環境美化条例・自転車などの放置防止条例などの強化、区民の意識改革など）、住宅建設の際の緑化誘導など区内緑化の強化 など

○協働のまちづくり

- ・区民と行政が一体となった協働まちづくりの仕組みづくり など

#### (5) 環境

■「区民総ぐるみで環境先進区としての取り組みが展開されているまち」実現のために

○関係機関と連携した、大気汚染対策の強化

- ・大気汚染の現状の公表と国や都と連携した対策の強化、アイドリングストップ運動の推進、脱車社会の先進区としての取り組みと情報発信 など

○区民・企業総ぐるみのリサイクル運動の展開

- ・リサイクル運動の強化推進、温暖化やダイオキシン発生原因となるプラスチック類の完全リサイクル化の推進、集団回収事業の強化・全世帯化 など

#### (6) コミュニティ

■「居住年数や年齢層などをこえた多様なコミュニティ活動が展開されているまち」実現のために

○町内会活動を中心とした地域が一体となるための共通理解と協力体制の強化

- ・地域住民と新しい住民との交流の仕組みづくり、コミュニティに消極的な人を誘導する仕組みづくり、町内会と管理組合との連携の強化 など

○在住外国人との交流の拡大

- ・在住外国人への長期的にやさしい対応、生活情報提供などの継続的实施など

○ボランティア活動の支援強化

- ・ボランティア活動のしやすい環境づくり・拠点づくり、ボランティア活動拡大の盛り上げ、遊休施設や器具などのボランティア活動への開放 など

#### (7) 区政

■「より区民に開かれた区政が実現しているまち」実現のために

○区民参画の仕組みづくりと区民の意識改革

- ・行政計画などへの区民提言や区民主導の地域づくりを推進する仕組みづくり、区民意見の把握や反映のシステムづくり など

○区民への情報公開とPRの拡充

- ・積極的な情報公開とPRの拡充、多様な情報提供やPR手段の活用 など

○区政の効率的運営

- ・縦割り組織の改編 など
- 区民サービスの向上
  - ・相談室などの充実と迅速な対応 など
- 条例の有効活用
  - ・区民の条例に対する認知度向上、条例の罰則規定の付加と遵守の徹底 など

(8) 基本構想実現のために

- 「行政評価の仕組みが適正運営され、評価を行いながら基本構想の目標達成のための活動が進められているまち」実現のために
- 行政評価の仕組みづくり
  - ・計画と予算、実行、評価が連動した行政評価の仕組みづくり、区職員の評価を受ける意識と風土の醸成、区民意見の反映と評価ができる仕組みづくり(オンブズマンシステムや第三者機関の設置・運営など)、区民の意識改革 など

編集発行：荒川区総合企画部総務企画課  
登録：(17)0066号